

小学校
4年 / 算数

四角形をつくろう

～フラッシュ型教材と実物投影機の効果的な活用～
実践者 登米市立北方小学校 菅原 真理

報告者 皆川 寛

1. 学習の概要

単元名

四角形をつくろう (本時 8 / 15)

本時の目標

平行な直線の組の数に着目し、四角形を仲間分けすることにより、台形と平行四辺形の定義を理解する。

本時の学習

学習活動

1. 2本の直線の関係が平行か垂直か、フラッシュ型教材で確かめる。(前時の振り返り)
2. 家庭学習で取り組んできた課題をペアで確認し合う。
3. グループで四角形を仲間分けし、結果を発表する。
4. 台形と平行四辺形の定義を確認する。
5. 練習問題に取り組む。

本時活用機器・コンテンツ

- ・大型テレビ (52型)
- ・実物投影機
- ・フラッシュ型教材 (一部自作)
- ・コンピュータ

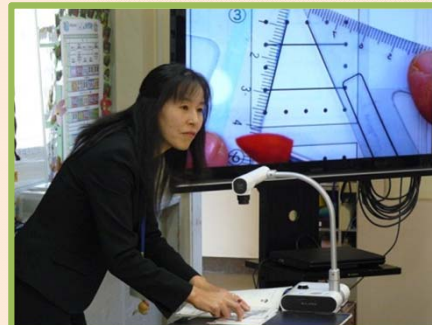
補助資料等

- ・グループ活動用ワークシート
- ・黒板掲示用の図形



指導上の留意点

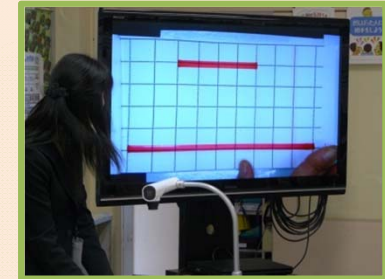
- 本時の学習につながるように、平行の関係に着目させる。
- 教科書p45で示された9つの四角形の中で平行な関係にある直線に色をぬり、自分の考えをペアで確認させる。
- 仲間分けの視点を与え、グループごとに話し合わせながら図形をワークシートに貼って分類させる。
- 児童のノートを実物投影機で拡大提示し、全体で確認する。



2. 学習のポイント

・フラッシュ型教材の活用

授業の導入場面でフラッシュ型教材を活用することにより、児童の学習意欲を高めることができた。また、本時につながる知識を確認し、「平行」の関係に着目させることができた。



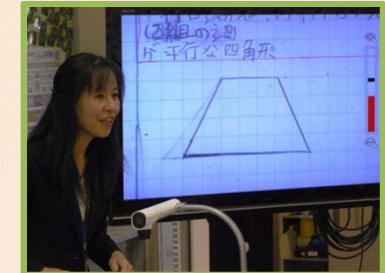
・算数的活動 (図形の分類)

9つの図形を3つの視点で分類する活動をグループ単位で行わせた。仲間の考えを生かし、自分たちの手を使いながら平行な関係に着目して図形を弁別する作業が確かな理解につながった。



・実物投影機の効果的な活動

図形領域の学習では、実物投影機を効果的に活用できる場面が多い。今回は、教科書の図を拡大提示して向かい合った辺の関係に着目させたり、児童がノートに書いた台形や平行四辺形を拡大提示し全員で確認したりする場面で有効だった。



3. 参観者の声

・ 導入で活用したフラッシュ型教材は、児童の集中力を高める上でも大変有効だった。自分の学級でも、ぜひ活用してみたい。

・ 実物投影機で児童のノートを拡大提示していたが、発表している児童はとてうれしそうだった。実物投影機は教師の指示や説明を児童に分かりやすく伝えるという効果はもちろん、児童の満足感を高めるという効果もあることを実感した。

